

みんなの農業

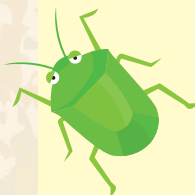
農作業メモ カメムシから稲を守る

営農指導課 山本

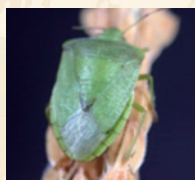


昨年はカメムシの発生が多く、品質や収量に影響を受けました。カメムシが大量発生する原因は、主に暖冬とエサの増加です。ここ数年、スギやヒノキ花粉が多いことから、カメムシのエサ場となり発生量が多くなる傾向となっています。また、成虫でも越冬するので、暖冬だと生き残る成虫も多くなります。

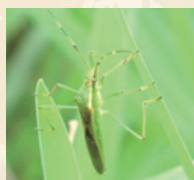
稲に被害をもたらすカメムシは、出穂時期になると畦畔などの生息地から田んぼに移動し、稲穂から養分を吸い取ります。その結果、不稔粒や斑点米となり、収量や品質の低下につながります。



イネカメムシ



ミナミアオカメムシ



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ

【対策】

▼雑草管理

カメムシの住処を奪うことは、耕種的防除のひとつになります。畦畔や休耕田などの草刈りや除草を出穂の10〜14日前までに行いましょう。出穂直前の草刈りなどはカメムシを水田に追い込んでしまうので、前もって雑草管理を行い、カメムシが水田に近寄りにくい環境を作りましょう。また、水田内のノビエやホタルイなどの除草も行ないましょう。

▼薬剤による適期防除

常発地や発生が多い場

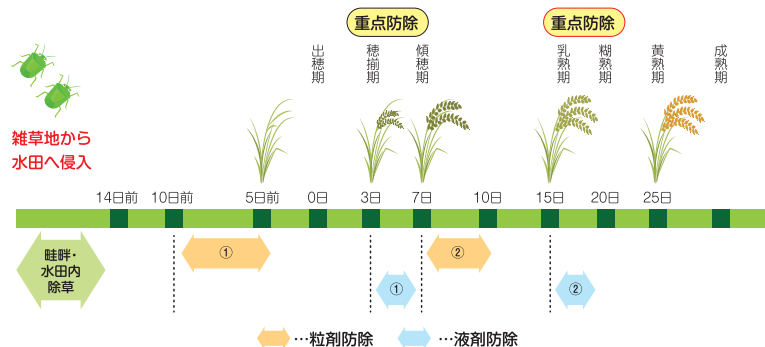
合は、1回では防除しきれないため、下表を参考に2回防除を心がけましょう。

散布適期は、粒剤の場合、出穂期の1週間前（不稔米対策）と出穂1週間後散布（斑点米対策）。粒剤を1回しか散布しない場合は、出穂期の1週間前散布がおすすめです。

液剤を2回散布する場合は、出穂始期に1回（不稔米対策）と1回目散布の7〜10日後に2回目散布（斑点米対策）になります。1回しか散布できない場合は、出穂始期から穂ぞろい期に散布してください。

【散布適期目安表】

斑点米カメムシ類の発生が多い場合や常発地では、1回の防除で斑点米を抑えることは困難です。穂揃期と乳熟期の2回、防除を実施しましょう。



※農薬の使用については最新の登録内容を確認し、適切に使用しましょう。

桑名営農センター
0594-22-6166

多度事業所
0594-48-5340

木曽岬営農センター
0567-68-8142

長島営農センター
0594-42-5181

いなべ総合センター
0594-78-3980

四日市西部営農センター
059-394-5100

中部事業所
059-365-6352

四日市グリーンセンター
059-329-2055

南部事業所
059-348-6020

営農指導課
059-393-3620